

INGING NEWS PAPER

SUPER FORMULA 2020 JMS P.MU/CERUMO・INGING Race Report

Vol.

3

2020

Take Free!

NEXT RACE Round 3. スポーツランド菅生 10.18 SUN

Chapter.3

「未完全からの完全勝利」

INTERVIEW

■ チーム監督 立川 祐路

「どの作戦もうまくいく
理想的なレース」

■ 38号車 ドライバー 石浦 宏明

「果敢に攻めた
2位表彰台」

■ 39号車 ドライバー 坪井 翔

初優勝!!
「参戦2年目、
念願の」

Congratulations!

RACE ARCHIVE

レースアーカイブ: Round.2

岡山国際サーキット

Get! We are Winner
チーム全総力をあげた会心の

1.2 フェニックス!

ワン・ツー

RACE ARCHIVE

レースアーカイブ Round.2 岡山国際サーキット 決勝 9月27日(日) <予選・決勝> 天候:晴れ | コース状況:ドライ

38号車石浦宏明が初めてポールトゥウィンを達成した思い出深いサーキット。この得意のサーキットで、昨年より苦戦している SF19 との闘いの成果を収めたいところ。皆が最良の結果を是が非でも得たいとレースに臨んだ。

予選順調な走りでQ3へ、石浦は6番手、坪井は予期せぬクラッシュ!! 決勝まで僅かな時間で懸命に修復する巧者たち

決勝レースは、51周で戦う。15時15分フォーメーションラップがスタート。各車が戻って来てグリッドに付くと赤旗が呈示された。フォーメーションラップ中にクラッシュした車両があった為で、その車両の回収の為にスタートがディレイとなった。それに伴い、レースの総周回数が50周へと減算された。

試される集中力

また、今回のレギュレーションではスタートしてから10周以降にタイヤ交換の義務付けが定められているが、その周回数に変更はなかった。スタートから思いがけずドライバーの集中力がますます必要となる展開。15時30分に再びフォーメーションラップが開始となりレース再開となった。向かい風が強く吹くのは変わらず。シグナルがグリーンになると、一斉に1コーナーに飛び込んで行った。そんな中、2台のマシンが接触しクラッシュ。巻き込まれコースアウトした車両もありセーフティカーが導入された。

大混乱の中 攻める坪井 迫る石浦

この混乱のスタートには巻き込まれることなく6番手からスタートの石浦は3番手に、8番手からスタートした坪井は2番手に浮上した。マシンの回収作業が終わると、8周目からレースがリスタートした。トップ20号車に遅れることなく続く2台。果敢にオーバーテイクシステムを使う石浦は前を行く坪井に迫ったが抜くには至らず。9周目、石浦の後ろの1号車が猛進。横に並ぶもしっかりと抑えきった。10周目を迎え、タイヤ交換の義務を消化できるようになり、中国の数がピットに向かった。11周目、2番手の坪井がピットに向かった。チームは2台のクルマのうち、前を走っているクルマにピット作業を先に終える権利を与えている。今回は2番手にいた坪井が先にピットイン。続けて12周を終えるとトップの20号車がピットインし石浦がトップとなった。先にタイヤ交換を終えた坪井は、タイヤもあたたまりアウトラップの20号車をヘアピンでパス。8番手にあがり、ピットインを終えたグループでは事実上のトップとなった。ピット作業を終えてない38号車石浦は、コース上でトップ。石浦は、坪井とのマージンを広げることになり、ここからはチーム内対決となった。ピット作業を終えトップで戻るには約33秒以上のマージンが欲しい所。坪井は、各車がほぼピットインを終え19周目4番手、ここからピット作業未消化の上位3台を先頭に膠着状態が続く。

1・2体制の戦いへ

30周を終えると石浦がピットへ向かう。8.7秒のタイヤ交換作業でピットアウトをすると、坪井の前でコースに復帰。オーバーテイクシステムを使用し防戦するも、アウトラップの石浦には坪井の勢いは止めることができず3位を譲り4位となり走行を続ける。事実上ワンツー体制で戦いは続く。ピットインを引っ張っていた上位のクルマ2台が48周、49周でピットに入ると、ついに坪井トップ、石浦2位のワンツー体制でチェッカー。坪井は、スーパーフォーミュラ2年目で初優勝を遂げた。石浦も久しぶりの2位表彰台獲得となった。

INTERVIEW

参戦2年目、念願の初優勝!!

予選は調子が良かったので、これはポールも行けるのではと思いつつQ3まで行きました。自己ベストで来ていたのですが、風が出てきたのが突発的にリアが出てスピンクラッシュしてしまいました。結構クルマを壊してしまい、開幕戦でもクルマを壊してしまったので、みんなに迷惑をかけてしまったと思って心が折れました。ここから立ち直るのは結構大変でした。何とか1つでもポジションを上げ決勝では無理せず行こうと思ったら、1コーナーでのアクシデントには巻き込まれず2番手になることが出来たので、無理してでも勝ちたいと思いました。レース中、クルマが速くトップだった平川選手をオーバーカットしたり、石浦選手を抜いたり、キャンディ選手がブッシュしているときに自分もブッシュしたりという決勝でやらなくてはならない仕事をきっちり出来たと思っています。チェッカーを受ける前、最終コーナーをまわった時は号泣していました。エンジニアからは、ここからスタートだから泣くなと言われて、下げていたバイザーを上げて涙を堪えました。初優勝とてもうれしかったです。引き続き応援をよろしくお願いします

坪井 翔 39号車 ドライバー

石浦 宏明 38号車 ドライバー

果敢に攻めた

2位表彰台!!

昨日の公式練習では、14番手と手応えは全くありませんでした。昨日の夕方、自分のコメントからエンジニアがとても細かな、0.何ミリ単位のこの違いを、改善の可能性があるかもと探ってくれました。それが今日のQ1に影響し、そこを探してくれたエンジニアはスゴイと思います。ただクルマが予選にきっちりあったものであるかと言えばそうとは言えず、予選には弱さがあり決勝に強いクルマに合わせていきました。しかし自分のドライビングもSF19に合わせ切れてないと認識しています。本来Q3まで残れなさそうな雰囲気だったクルマで、意地に残れたことが決勝の結果につながったと思っています。次の目標は、予選からきっちり詰めて結果を出したいです。決勝は、スタートで3番手にポジションをあけて、前の2台がピットに入ってからベースは良かったのですが、徐々に苦しくなってチームと無線でやり取りをしピットに入りました。ニック選手のペースが良いので、バトルをするよりも2台で逃げたいという作戦でした。良いペースで走れるクルマだったことに感謝です。SF19になってから、初めて1-2取れました。結果としてはまだ飛び抜けた速さにはなっていないので、ポールが争えるような速さに行きたいです。3台クルマがあるのでそこはチーム全員でトライしたいと思います

立川 祐路 チーム監督

どの作戦もうまくいく 理想的なレース

2台なので前にいる方にピットの優先権があり、戦略が分かれました。坪井を先に入れる形を取り、石浦は引っ張る作戦になりました。平川はうちの2台両方には対応できないので、坪井が入ったからピットに入ったと思います。それで石浦は前が開けました。あとは坪井と石浦の二人の戦いになるので、各エンジニアに任せる形でした。どちらの作戦もうまく行くという理想的なレースだったと思います。こんなにうまく行くことも珍しいですね。決勝のペースも二人とも良かったですし、今日の坪井は自分のチカラで勝ち取るうれしい勝利だったと思います。正直、今日優勝するとは思ってなかったのですが、決勝に向けてクルマが戦える状態だったし、二人の速さもありました。昨年からのクルマやタイヤが変わって苦戦していたので、これを機にチームのモチベーションもあがり、またチャンピオン争いに加わるよう頑張りたいと思います

Results #38 石浦 宏明 予選 6位 決勝 2位 #39 坪井 翔 予選 8位 決勝 1位

総評

昨年 SF19 にクルマが変わってから苦戦をした一年。なかなか結果に結びつかずいたが一気に花開いた。チームの地道な努力により最良の結果を導いたことは、チームの自信にも繋がった。もう秋になるとは言えシーズン序盤、引き続き一丸となって戦績を積み上げていきたい。

未完からの

完全なる勝利

Chapter.3

To be Continued...